

第6回パネル展大阪
2008年6月



毎日新聞2008年6月7日

過労や職場の心労などからうつ病になり、自殺した人の写真や遺族の手記を展示する「私の中で今、生きているあなた」が8日まで、大阪市北区梅田1の大阪駅前第2ビル5階ギャラリーで開かれている。同市北区のNPO法人「働く者のメンタルヘルス相談室」主催の巡回展で、今回で6回目。自殺した夫の日記などを公開している尼崎市

過労や心労での自殺に理解を

の大橋錦美さん(58)も訪れ、来場者に語りかけている。来場者の中には、自殺者の遺族、うつ病闘病中の遺族の手記や阪大の人もいた。息を止めた父親が「なんで死んだのかと責めるだけではない、精いっぱい生きて選んだ死を認めてあげようと思う」と絞り出す

【山奈緒】

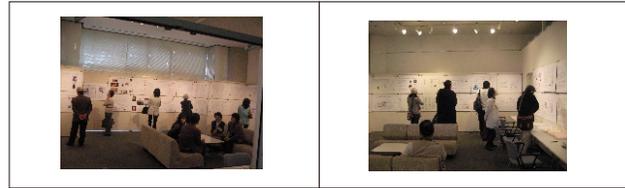
時間の許す限り会場に足を運んでいるという大橋錦美さん
＝大阪市北区の大阪駅前第2ビルで



うな声で話していたのが印象的だったという。この企画展が自殺に対する社会の関心を強めるきっかけになり、理解が深まれば」と話している。

会場には、自殺者が最期の言葉を記した手記や詩、労災認定を巡る裁判の資料などが並ぶ。同法人の伊福達産理事長は「遺書には『すいません』

第5回パネル展尼崎
2008年4月



神戸新聞2008年4月20日

尼崎市のアルカイクホール・ギャラリーにて10日から14日まで、過労や職場のストレスなどで自ら命を絶った50人の遺書や日記、遺族の手記を集めた展示会があった。会場に足を運ぶと、35枚のパネルに見入る人たちに、自らの経験を語りかける女性の姿があった。同市在住で夫の均さん(56)＝を亡くした大橋錦美さん(57)。「夫や自分のような思いをする人を二度と出さない」との強い思いがあった。(阿西篤志)

この苦しみもう誰にも

尼崎で遺族手記など展示

大橋市の主婦大橋錦美さん(57)の夫の均さん(56)が、過労や職場のストレスなどで自ら命を絶った。大橋さんは、その人面苦む顔で、遺書や日記を手に取り、涙を流して語りか

均さんは大手運輸会社の旅行部に勤務し、勤務先が倒産した。均さんは、その苦しみ、涙を流して語りか

妻が入場者に経験語る



大橋錦美さん(57)の夫の均さん(56)が、過労や職場のストレスなどで自ら命を絶った。大橋さんは、その人面苦む顔で、遺書や日記を手に取り、涙を流して語りか

均さんは大手運輸会社の旅行部に勤務し、勤務先が倒産した。均さんは、その苦しみ、涙を流して語りか

過労でうつに。夫は命を絶った

大橋錦美さん(57)の夫の均さん(56)が、過労や職場のストレスなどで自ら命を絶った。大橋さんは、その人面苦む顔で、遺書や日記を手に取り、涙を流して語りか